

派遣専門家オリエンテーション資料

南イエメン

PEOPLE'S DEMOCRATIC
REPUBLIC OF YEMEN

任国情報

1989年

国際協力機関
国際協力総合研究所



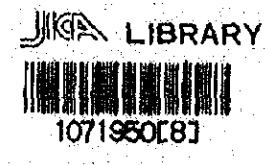
はしがき

この任国情報は国際協力のために赴任される専門家およびJICA役職員等に、任国での生活上必要な事項についての情報を提供するものである。

本情報の整備にあたっては当該国に派遣中の専門家、JICA事務所員、プロジェクト調整員、協力隊調整員とそのご家族の多大なご協力を得た。また、外務省、在外公官館その他機関のご好意により、貴重な資料の一部を利用させていただいた。

今後も、本書の内容を一層充実させ、常に、新しい情報の提供に努めたく、各国にご滞在の皆様より最新かつ具体的で正確な情報をお寄せ下さるようお願いする。

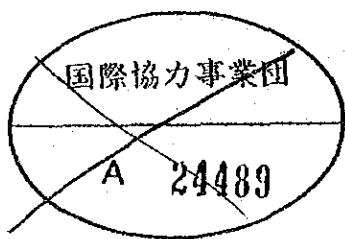
本情報が国際協力の分野で活躍される方々の参考となれば幸いである。



平成元年1月

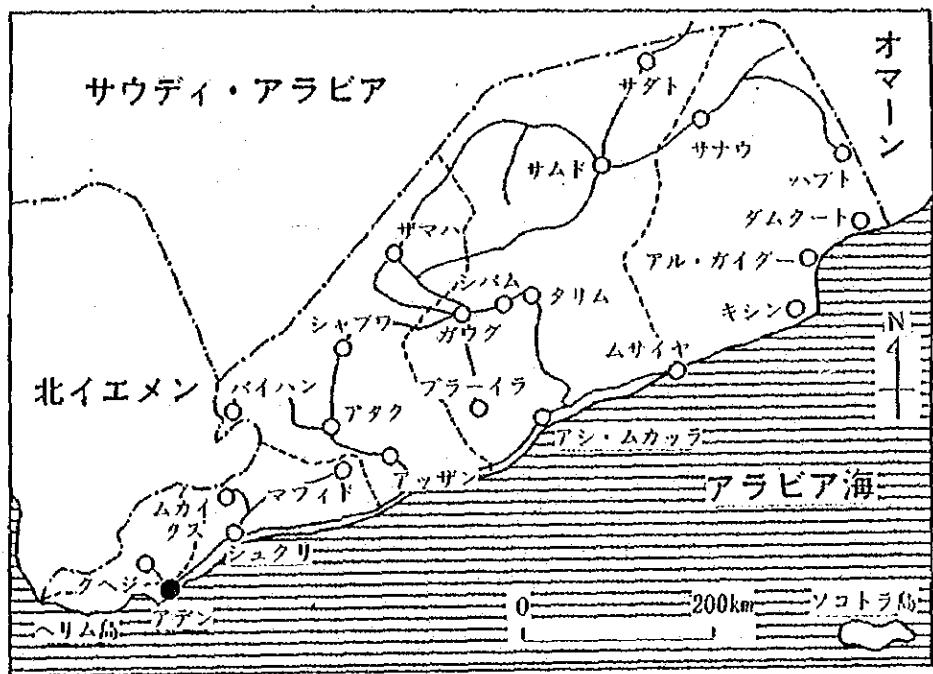
国際協力事業団

国際協力総合研修所長



18646

イエメン民主人民共和国



目 次

頁

I 一般事情

1. 主要指標	1
2. 略 史	3
3. 政治, 外交	5
4. 経済事情	7
5. 我が国との関係	14

II 生活事情

1. 食生活	18
2. 衣 料	22
3. 住 宅	24
4. 医 療	26
5. 教 育	30
6. 家庭の使用人	32
7. 交通事情	35
8. 通 信	38
9. マスコミ	40
10. 教養, 娯楽, 趣味, スポーツ	41
11. その他のサービス	44
12. 観 光	45
13. 治安, 緊急時の心得	47
14. 出入国手続きおよび帰国手続き	48
15. 私財の輸送, 引取り, 購入	50
16. 社 交	51
17. 任國公官序	52
18. 在外日本関係機関等	54
19. 地方都市	55
20. アデン市略図	56

主要指標

I 一般事情

1. 主要指標

- 1-1 国名 イエメン民主人民共和国
People's Democratic Republic of Yemen
- 1-2 独立 1967年11月30日(旧宗主国はイギリス。独立記念日。10月14日の革命記念日も重要な祝日)
- 1-3 首都 アデン(人口37万人)
- 1-4 面積 33万7000平方キロメートル
- 1-5 気候
- (1) 西部山岳地域(紅海に沿って北イエメン、サウディ・アラビアから走る山脈の南端)では夏に雨が多く、1日の温度差は大きい。
 - (2) 沿岸平野地域(首都アデンを含むアデン湾沿いの平野)では年間降雨量は少なく、冬は温暖、夏は高温。
 - (3) 北部砂漠地域(サウディ・アラビアのルブ・アル・ハーリー砂漠の延長)ではほとんど雨が降らず、1日の温度差は大きい。
 - (4) 南部高原地域(沿岸平野地域と北部砂漠地域との間に位置)では気候は北部砂漠地域と似ている。

アデンにおける平均気温表

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
平均気温	25.5	25.6	27.2	28.7	30.7	32.8	32.2	31.6	31.7	28.9	26.6	26.0
降水量	7	3	6	0	1	0	3	2	7	1	3	6
平均湿度	72	73	73	74	72	65	65	64	67	69	71	72

- 1-6 人口 223万人(1986年、IMF)
- 1-7 人種 アラブ人(他にインド系もいる)
- 1-8 言語 アラビア語

主要指標

1-9 宗 教	イスラム教(大部分がスンニ派)
1-10 政 治	
(1) 政 体	共和制
(2) 元 首	ハイダル・アブバクル・アル・アッタース最高人民会議幹部会議長 Haidar Abu-Bakr Al-Attas (任期5年)
(3) 議 会	最高人民会議(1院制) (普通選挙による111名の議員から成る)
(4) 政 党	イエメン社会党(The Yemen Socialist Party) 1978年10月、75年以来単一政党であった民族戦線政治機構(NFPO)が発展解消して成立した。 (中央委) 書記長 アリー・サーリム・アルビード 副書記長 サーリム・サーレハ・ムハンマド
1-11 経 濟	
(1) 国民総生産	10億3000万ドル
1人当たりの国民所得	480ドル (1986年世銀統計)
(2) 主要産業	魚、縄綿および綿実の2大輸出品のほか、皮革など一次製品が中心となっている。
(3) 貿 易	輸出(FOB) 3億700万ドル 輸入(CIF) -82億4600万ドル(1984年、IMF)
(4) 財 政	歳入 14億8200YD 歳出 25億9200YD(1982年、IMF)
(5) 通 貨	通貨単位 : Yemeni Dinar(s) = 1,000Fil(s) 略号 : YD 為替相場 : 1US\$ = 0.34YD (1988年7月末) (東京銀行月報1989年1月号)
(6) 外貨準備高	2億300万ドル(1985年、IMF)
(7) 対外債務	14億4600万ドル(1985年、世銀)
1-12 日本との時差	時差は-6時間で、日本の正午はイエメン民主人民共和国では同日の午前6時である。

略 史

2. 略 史

(1) 古代イエメン文明

サバ(BC10~3C), ハドラマウト(BC10~3C), カタバン(BC8~3C), マイン(BC8~2C), アウサン(BC7~BC5C)各王国が出現し、東西交易の要衝として繁栄。

(2) 中 世(7~16C)

イスラム化。16C末以降はオスマン・トルコ, イギリスの侵入開始。

(3) 近 代

1538~1635 オスマン・トルコ, アデンを占領

1834 イギリス, ソコトラ島を占領

1839 イギリス, アデンを占領

1914 イギリス・トルコによる南北イエメン分断

1937 アデン, イギリスの直轄植民地となる

1959 南アラビア首長国連邦成立

1962 南アラビア連邦成立

1963 NLF, 人民社会党等が組織される

10.14 武力革命開始

1967. 11.30 イギリスより独立し, 南イエメン人民共和国成立
(シャアビーNLF書記長が大統領就任)

(4) 独立以降

1968. 6 ソ連と軍事技術援助協定

1969. 6 シャアビー失脚, ルバイア・アリ大統領就任
計画経済の導入, 国有化の推進, 農業改革の実施
アメリカ合衆国と国交断絶

1970. 11 憲法制定, 現国名に変更

1976. 3 サウディ・アラビアと国交正常化

1978. 10 イエメン社会党結成

12 イスマイル書記長が大統領就任

1979. 10 ソ連-南イエメン友好協力条約(期間20年)

略 史

1980. 4 イスマイル亡命
アリ・ナーセル・ムハンマド首相が大統領就任
1981. 12 南北イエメン協力協定
1983. 10 オマーンと国交正常化
1985. 2 新内閣(アッタース首相)成立
(この頃、イスマイル前大統領帰国)
- 10 第3回イエメン社会党大会
(アンタル副大統領就任、イスマイル復帰)
1986. 1.13 内紛発生
- 1.24 アッタース新政権樹立
(アッタース首相が暫定大統領に就任)
2. 8 アッタース正式大統領就任、新内閣発足
- 10 最高人民会議(および地方人民会議)の総選挙実施
- 11 最高人民会議はアッタース大統領を選出
1987. 4 ジャブワ州における油田発見を発表

3. 政治、外交

3-1 最近の政情

イエメン社会党を政治権力の頂点とするソ連・東欧型の政治体制。ただし、部族の勢力も一部残っている。

1986年1月、政権指導層の権力闘争による内紛が発生し政権交替。87年末に事件判決を決定し、死刑囚5名を処刑。

新政権は集団指導体制をとり、政情は落ち着きを取り戻しつつある模様であるが、(イ)旧政権派の存在、(ロ)現政権派の内部分裂の可能性という政治的不安定要因を内包している。

3-2 外 交

マルクス・レーニン主義および親ソ政策を基本路線としつつ、1981年後半よりはソ連一边倒から近隣アラブ産油諸国、西側諸国への接近政策に転じ、これら諸国との経済技術協力増大を重視するようになってきている。86年1月の内紛後もこうした対外政策に基本的変更は見られない。

- (1) ソ連・東側諸国との関係では、ソ連を皮切りに東ドイツ、エティオピア(79年)、チェコスロvakia、ハンガリー、ブルガリア(81年)等と友好協力条約を締結し、良好な関係を維持。また1981年8月にはリビア、エティオピアとの間で三国友好協力条約を締結し、関係緊密化を図った。
- (2) アラブ諸国との関係では、サウディ・アラビア等湾岸アラブ諸国との関係改善に努力。1982年1月よりイラクとの間で、83年8月にはサウディ・アラビアとの間で大使レベルの外交関係を回復し、83年10月にはオマーンと国交正常化。87年3月下旬にもアッタース大統領は湾岸諸国を歴訪し、UAE・ザイード大統領、カタル・ハリーファ首長等と国際情報、二国間関係等について会談を持った。
- (3) 南北イエメン関係では、1972年9月、79年2月にそれぞれ国境における軍事衝突が発生したが、その後の元首会議で南北イエメン統合の基本的合意が成立した。81年12月には、イエメン最高評議会(両元首が議長)、合同閣僚委員会の設置等を決めた「南北イエメン間の協力関係の発展および調整に関する協定」を締結。86年1月の内紛により旧政権派要人を含む大量の避難民(1万~5万人と言われる)が北イエメンに流入し同国の経済的・社会的問題を若起しているが、同問題の政治的解決に向け接觸が行われている。

政治、外交

- (4) 西欧諸国との関係では、1981年後半から南エチオピアより接近の動きがあり、西欧諸国側もフランスはホテル建設、アルゼンチン空港ビル建設、イギリスは上下水道整備、イタリアは家禽飼料工場建設等の経済開発に協力しているほか、教育促進や技術協力を実施している。アメリカ合衆国とは外交関係ではなく、新政権は国交回復の意向なしと発表している。
- (5) 中国とは1983年後半より関係強化され、活発な土木建設工事が行われてきており、87年3月のノーマン首相訪問中に際しても屋内競技場建設その他各種の経済技術協力の取組を締結した。

4. 経済事情

4-1 概観

1967年独立以前に、南イエメン経済を主として支えていたのはアデン港であった。世界第4の燃料補給港も、同年スエズ運河が閉鎖されたため、また、イギリスよりの援助停止で1976年に再開されるまでに、すっかりさびれ、また近年、アカバ、ポート・スー丹、ホディダ・ジェッダの各港が整備拡張され、その競争もあり、いまでは、1966年の約3分の1に寄港船も減ってしまった。南イエメンは面積33万7000平方キロメートル、人口223万人（うち約10万人は、国外へ出稼ぎ、この仕送り等海外送金約4億ドルが国際収支を堅調にしている）。国土の大部分は荒地で、農地は全面積の0.2%、約8万ヘクタールに限られ、人的資源を除いては、アデン港、アデン精油所、1,200キロにおよぶアラビア海沿岸での漁業、塩等が主たる資源であるが、最近、外貨獲得手段として観光も注目されるようになった。南イエメンは1979年以来、ソ連、東ドイツ、エティオピア、チエコ、ブルガリア、ハンガリーと友好協力条約を結び、また、81年にリビア、エティオピアとの間にいわゆるアデン条約が結ばれ、中国、モンゴル、キューバ、ヴィエトナム、北鮮とも友好関係にある。東側の社会主义志向国ではあるが、社会主义国ではない。また、ソ連の衛星国でもない。南イエメンは、IMF、IBRD、IDAの加盟国であり、また、経済相互援助会議(SEV)のオブザーバー資格を有している。仄聞するに対ソ借款20億ドル（うち5億8000万ドルは非軍事部分という）は大きな重荷であり、最近は、善隣友好非同盟政策を看板に、中国、ブルガリア、PLOなどを挺子に、ソ連を刺激しないよう、ゆっくりと独自路線を歩み始め、アラブ富裕国、西側諸国から、経済技術援助を引出そうと努力しつつある。

南イエメンは、1967年独立後、1971～74年の3ヵ年計画、1974～78年の第1次5ヵ年計画、1981～85年第2次5ヵ年計画で、食料、消費財、住宅、雇用、医療等に対する国民の基本的 requirement の充足、農・水産業、工業の生産力拡大、インフラ整備、石油、鉱物資源の探査開発、教育、技術水準の向上、国産品の輸出拡大を狙った経済政策を実施してきた。しかし、第2次経済開発5ヵ年計画(81～85年)は総投資額12億2900万ドルを投資し①住民の生活水準向上②電力、水利開発など産業基盤の整備などをを目指したが、当初の目標は達成できなかった。

南イエメン経済を支える財源は出稼ぎ労働者の送金と外国または国際機関よりの経済援助である。外貨収入の約半分は出稼ぎ労働者の本国送金に依っているが、同収入は1982年のピーク時に比べ86年末にはその3分の1に激減していると言われる（5億8000万ドル；1983年）。も

経済事情

う一つの重要な外貨収入源であった精油所(精製能力は10万B/D程度)における委託精製も停止し、経済情勢は逼迫。61年7月頃から食料品等生活基本物資の物価上昇、電気・水道等の公共料金の値上げが実施されている。

南イエメンは国土の大部分が荒地で高温かつ雨量が乏しく(可耕地は国土の約1%)、若干の漁業資源以外にみるべき資源はない(1,500km以上の長い海岸線をもち冬に吹く北東、夏に吹く南西季節風がアデン湾内に多数の湧昇流を発生させるため魚の豊富な海洋となっている)ことから、経済発展のかぎとして政府は石油資源の開発に期待をかけており、1986年4月に、ソ連産原油60万tをアデンで精製する石油精製協定をソ連と調印。さらに7月、精製したうちの5万tを3年間無償でソ連が供給するなどの援助を盛り込んだ合意書にも調印した。12月にはソ連との間にシャワブ地区の石油探査の譲定書を交わした。

1987年4月15日、シャワブ地区で石油発見を祝い大祝賀会が開かれ、アルベイド党書記長、ノアマン首相、ソ連地質大臣らが出席。アルベイド書記長はこの油田発見で外貨収入が増大するなど南イエメンの経済の発展に重大な意義をもつことを強調し、4月15日をイエメン地質専門家の日とすることを宣言した。

翌16日には最初の約10万ガロンの原油がタンクローリーでアデン港に面した火力発電所に到着し、歓迎行事が行われた。

なお、1986年1月政変では、アデン精油所が被害を受けるなど、政府発表によると全土で約1億4000万ドル相当の被害が出たといわれ、86~90年の第3次5カ年計画にも大きな負担を与えている。

4~2 産業

(1) 農業

南イエメンの国土は大部分が乾燥地帯にあるため、農業はワディ沿いに発達してきた。このため可耕地は1,600km²(国土の約1%)ときわめて少ないが、アデンを中心として発達した商業・サービス業を除けば他に主だった産業がないといった国情から、農業はGDPの15%をしめ、就業者の60%が従事する重要な産業となっている。しかし農業用水の不足や伝統的耕法に依っていることなどから農業生産性は低く、食糧自給は達成されていない。また耕地の内訳は、井戸によりかんがいされる耕地が9%であるのに対し、洪水流出によりかんがいされる耕地が31%、天水降雨に依存する耕地が60%をしめており、農業生産高は降雨量に左右されやすい。

土地所有の状況をみると1968年および70年に実施された農地解放により、個人の所有は灌漑地域で8ha、天水降雨による地域で16haに制限

経済事情

されており、それ以外の農地は集団農場や国営農場に編入されている。集団農場は43カ所で運営され総面積は耕地全体の3%，国営農場は37カ所で運営され、耕地全体の39%をしめている。

主要農産物はソルガム、きび、小麦などの穀物、野菜、飼料、うり、なつめやし、輸出作物としての綿花などである。穀物生産量は耕地面積の拡大にともない順調に増加し、1970/71年度から1975/76年度までの5年間に年平均16%もの伸びを示した。このため、年々増加していた食糧品の輸入は1975年から減少し、特に小麦および小麦粉の輸入は激減している。しかし、依然として小麦の輸入量は国内生産量を上まわっており、貿易収支赤字の大きな要因となっている。穀物生産の内訳はソルガム、きびが約80%と大宗をしめ残りはハドウラマウトやペイハンで生産される小麦がほとんどで、北イエメンと異なり大麦はほとんど生産されていない。穀物以外の農産品は飼料がほとんどであるが、国内およびアラブ諸国の需要増に比例して、野菜の伸びが著しい。一方主としてラヘージやアビヤンで生産される綿花は作付面積の減少により生産は年々減少している。

ダムやかんがい施設の建設などに力が入れられているが、農業開発にはあまり多大の期待をかけることは無理である。国内の流通・貯蔵システムが未発達であるため、野菜は自給可能な生産量をあげているといわれているにもかかわらず、アデン市内では供給量が常時不足している。アビヤンは2万haの耕作地を有し、綿花では国内生産の半分をあげているうえ、果物、野菜なども生産しているが、1982年の洪水でじん大な被害を受け、いまだに復旧していない。

(2) 水産業

漁業は南イエメンの主要産業であり、同国輸出高の50%以上をしめたこともある。

海岸線の長さは1,600kmで、水深200m以浅の大陸棚の広さはおよそ2万2000km²である。同国沿岸は、季節風が強いため表層流が発達し、春から秋にかけては北東流が5ノットに達する。この海流は湧昇流を誘発し、栄養塩特に磷酸塩に富んだ底水を浮上させ、好漁場を形成している。

同国沿岸水域には、一般の南方系底魚(たい、はた等)、大型回遊魚(まぐろ、かじき、かつお等)、表層魚(さば、いわし等)が棲息している。特に南イエメンからオーマンにかけては、かつて紋甲いか資源が豊富にあり、一時は2万トン/年の漁獲をあげたこともある。

南イエメンの漁業の形態には「政府部門」「漁業協同組合部門」「私的漁業部門」「合弁事業・外国船部門」の4部門があり、各部門の

経済事情

事業内容概要は次に示すとおりである。

「政府部門」には、イエメン漁業公社 (Yemen Fishing Corporation), 沿岸漁業公社 (Coastal Fishing Corporation) がある。イエメン漁業公社は、100~1500トン・クラスの鋼製トロール船14隻を保有しトロール漁業で底魚や紋甲いか、ロブスターを漁獲しており、沿岸漁業公社は100トン程度の鋼製漁船4隻を保有し旋網、小型底引網、刺網で表層魚、ロブスター、えび等を漁獲している。

「漁業協同組合部門」は、13の漁業協同組合、4,000人の組合員を対象に、組合活動を行っており、その中には帆または船外機を使用するカヌー型の船から長さ15M、45馬力程度の船内機を搭載した比較的大型の船まであり、網あるいは釣による操業でいわし、さば等の表層魚を主体に漁獲している。しかし、組合活動はインセンティブの不足による組合員の増産意欲の減退により、低迷している。

「私の漁業部門」は全国で1,000人程度いると言われている零細漁業部門で、その形態は帆または櫓・櫂による極小型のカヌー等でやはりいわし、さば等の表層魚を主体に年間1万5000トンの漁獲を挙げており、小規模ではあるが生産から加工・販売まで一貫して行っている。しかし、この部門の統計はあまり信用できない。

「合弁事業・外国船部門」は1971年からソ連との間で合弁事業が行われており、500~2000トン・クラスのトロール船10~12隻で底魚、紋甲いか、ロブスター、えびなどを漁獲している。かつては、日本船も入漁していたが、現在外国船で操業しているのはソ連船のみである。

イエメン民主人民共和国の最近5年間の各セクター別および魚種別の漁獲量は次のとおりである。

表1 (単位トン)

セクター分類	1983	1984	1985	1986	1987
政府	5,485	6,583	8,919	7,942	7,200
合弁・外国船	32,485	39,778	36,909	48,717	40,342
漁業協同組合	21,154	22,766	24,290	19,557	26,950
私の漁業	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000
合 計	74,124	84,127	85,118	91,216	89,492

経済事情

表2

(単位トン)

魚種分類	1983	1984	1985	1986	1987
表層魚	36,280	79,275	41,758	36,617	43,323
底魚	34,876	上記に含む	37,311	48,192	42,348
紋甲いか	1,627	3,836	4,700	5,031	2,211
ロブスター	634	629	931	994	1,248
えび	686	365	390	353	275
なまこ	21	22	28	29	87
合 計	74,124	84,127	85,118	91,216	89,492

(出所：「イエメン民主人民共和国(南イエメン)漁業訓練計画フォローアップ調査報告書」1988年,JICA無償資金協力業務部)

4-3 財政

イエメン民主人民共和国の財政規模は、1984年1月最高人民議会第16回会期で批准されたところによると、同年歳出3億2850万9687YD(このうち1億3206万6000YDが投資額)、歳入2億1314万0029YDであり、この歳入には、外国の融資額も計上されている。歳入の大半は、租税収入であり、輸入税が主である。社会主義志向国であるため、公営企業所得の歳入にしめる割合は1969/70年で約9%であったが76/80年にかけて年平均21%のシェアを維持しているし、今後も、このシェアは大きくなるだろう。

1981~85年の第2次経済・社会開発5カ年計画では、総額15億ドル、1986~90年にかけては、1980年の物価で総額約20億ドルの投資が見込まれているが、この財源を国内外から、いかに調達するかが問題であり、石油探査開発が成功するか、思惑どおりサウディ・アラビアなどから巨額の融資が得られるかによって大きく左右されよう。

ちなみに、個人部門の役割をどの程度重視し、生産部門への投資を促進してゆくかという問題も、当国経済の発展にとって重要な課題であるが、銀行は低利で労働者に、自己の住宅建設、自動車購入のための融資を行い、また当国政府は、「投資促進法」を公布して、海外在住イエメン人に呼びかけ、国産品よりの保護、当初8年間の所得税免除、低価格による電力供給、資本投資、スペア・パート、原材料輸入に対する免税、資金貸付の優遇措置を認めている。

経済事情

国 家 財 政 (単位: 100万YD)

	1977	1978	1979	1980	1981
歳 入	61.02	67.64	79.46	121.29	153.91
内) 課税収入	28.37	33.61	43.13	68.94	87.95
非課税収入	11.57	20.33	17.18	34.43	32.16
外国援助	19.20	13.20	8.20	10.50	19.40
その他	1.88	0.50	10.95	7.42	14.41
歳 出	96.94	116.82	119.96	155.30	229.13
内) 経常支出	47.46	61.27	75.26	94.47	137.98
資本支出	49.48	55.55	44.70	60.93	91.15
財政赤字	-35.92	-49.18	-40.50	-34.01	-75.22
赤字補填	35.92	49.18	40.50	34.01	75.22
内) 外国借入金	23.23	28.15	18.46	27.30	47.89
総借入金	23.40	28.60	19.90	29.50	49.30
元金返済金	0.17	0.45	1.44	2.20	1.41
国内銀行	10.30	14.60	23.10	17.20	23.60
貿差・脱漏	2.29	6.43	-1.06	-10.39	3.73

出所: EIU Country Profile 1986-87

4-4 貿易、国際取支

1982年において、輸出5400万ドル、輸入8億1700万ドル、サービスおよび海外よりの私的送金4億7400万ドル、外国よりの借款援助2億5200万ドル、貿易は7億6210万ドルの入超であるが、国際取支は3590万ドルの赤字に止まり、比較的堅調である。

輸出は、乾魚、棉、タバコ、コーヒー、石油製品、原材料など、仕向け国は、日本、サウディ・アラビア、北イエメン、シンガポール等であり、輸入は、食料、原油、機械、自動車、繊維品、セメント、その他で、特に原油は、食料と並びそれぞれ約2億ドルをしめており、輸入の大半をしめている。輸入先は、工業先進国、特に日本、オランダ、イギリス、オーストラリア、フランス、イタリア、ドイツ、デンマーク、社会主義国では、中国、ソ連。アラブ諸国では北イエメン、アジア諸国では、タイ、香港、インド、シンガポール。アフリカでは、ケニア、エチオピアがあげられる。小麦は、オーストラリア、砂糖はソ連、ECから輸入されている。

経済事情

主要輸入相手国 (単位: %)

年 国名	1981	1982	1983	1984	1985
アラブ首長国連邦	25.8	12.6	10.6	9.2	10.0
オーストラリア	2.6	4.6	3.7	6.2	9.6
イギリス	4.2	7.3	6.9	7.3	6.5
アルジェリア	6.2	5.4	5.8
日本	8.7	10.6	10.1	7.2	5.7
オランダ	4.0	4.3	4.4	4.5	5.2
フランス	2.7	4.2	3.3	4.4	4.7

出所: EIU Country Profile 1986-87

国際収支 (単位: 100万米ドル)

	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984
輸出(FOB)	39.3	44.3	59.6	48.6	37.9	40.2	30.7
輸入(CIF)	-367.1	-390.8	-598.2	-641.0	-690.8	-683.6	-824.6
その他の商品・ サービス収入							
内) 貸 方	61.3	79.0	120.2	141.3	154.0	138.4	130.0
借 方	-75.4	-98.7	-142.7	-169.4	-196.3	-210.8	-212.8
民間無償移転	254.8	297.9	322.5	378.7	429.7	439.5	479.5
政府無償移転	48.2	30.4	79.3	121.9	126.5	43.1	29.5
経常収支	-38.9	-37.9	-159.3	-119.9	-139.0	-233.1	-367.7
長期資本収支	82.9	51.6	78.9	144.1	145.9	255.1	136.1
短期資本収支	-11.5	-35.3	24.6	5.5	24.0	2.9	63.4
資本収支	71.4	16.3	103.5	149.6	169.9	258.0	199.5
誤差・脱漏	34.2	44.1	93.1	-18.4	-20.6	-18.4	159.9

出所: EIU Country Profile 1986-87

我が国との関係

5. 我が国との関係

5-1 政治、外交

(1) 外交関係

1967年 12月 12日 承認

1974年 4月 10日 我が方兼任大使(在エジプト大使)発令

5月 10日 在京大使館開設

1977年 5月 28日 我が方大使館開設(在エジプト大使兼任)

1982年 6月 30日 在京大使館一時閉鎖

1985年 5月 24日 我が方サウディ大使が兼轄

(2) 条約関係

なし

5-2 経済、貿易

1986年通関統計

日本の輸出 約2000万ドル(機械機器、軽工業品、金属製品等)

日本の輸入 約3270万ドル(原材料・燃料、食料品)

我が国との関係

我が国のイエメン民主人民共和国との貿易

(単位 1000ドル, ただし()内100万円)

商品	年 数量 単位	1986年			1987年				
		数量	金額	構成 比(%)	数量	前年 比(%)	金額	前年 比(%)	構成 比(%)
輸出総計	-		19,958	100.0			31,516	157.9	100.0
(食料品)	-		(3,339)				(4,515)	135.2	
(原燃料)	-		176	0.9			32	18.2	0.1
(軽工業品)	-		34	0.2			63	185.3	0.2
織維類品	-		4,469	22.4			6,922	154.9	22.0
織物	KSM	57	136	0.7	215	377.2	485	356.6	1.5
合成織物	KSM	912	955	4.8	1,371	150.3	1,553	162.6	4.9
織維二次製品	-		470	2.4			1,711	364.0	5.4
衣類	-		404	2.0			1,254	310.4	4.0
その他の軽工業品	-		2,393	12.0			2,663	111.3	8.4
タイヤ・チューブ	MT	417	1,161	5.8	401	96.2	1,131	97.4	3.6
家具およびその部分品	-		310	1.6			68	21.9	0.2
(重化学工業品)	-		15,269	76.5			24,499	160.4	77.7
化学会 品	-		515	2.6			1,137	220.8	3.6
人造プラスチック	MT	78	231	1.2	16	20.5	179	77.5	0.6
金属品	-		3,142	15.7			2,490	79.2	7.9
鉄 鋼	MT	5,324	2,038	10.2	2,347	44.1	1,253	61.5	4.0
棒鋼および形鋼	MT	1,558	347	1.7	359	23.0	109	31.4	0.3
厚板	MT	28	24	0.1	66	235.7	26	108.3	0.1
亜鉛鉄板	MT	2,947	1,163	5.8	1,250	42.4	596	51.2	1.9
鋼管	MT	478	225	1.1	131	27.4	134	59.6	0.4
金属製品	-		1,102	5.5			1,237	112.3	3.9
貯蔵用および輸送用の金属製容器	-		353	1.8			261	73.9	0.8
機械機器	-		11,612	58.2			20,873	179.8	66.2
一般機械	-		3,927	19.7			7,375	187.8	23.4
内燃機関	-		1,574	7.9			2,497	158.6	7.9
(航空機用を除く)									
建設、鉱山用機械	NO	5	309	1.5	25	500.0	814	263.4	2.6
加熱、冷却用機器	-		253	1.3			550	217.4	1.7
荷役機械	-		536	2.7			1,023	190.9	3.2
電気機械	-		4,317	21.6			3,161	73.2	10.0
重電機器	-		311	1.6			638	205.1	2.0

(出所:通商白書 昭和63年版)

我が国との関係

5-3 経済、技術協力

南イエメンに対するDAC諸国の二国間ODAは、1986年支出純額で156万ドルであり、形態別には無償資金協力(シェア58.3%)および技術協力(同41.7%)が中心となっており、イギリス(同88.5%)が主要援助国である。

また、国際機関は、1986年支出純額で、4,701万ドルのODAを供与しており、貸付がこのうちの61%をしめ、IDA、WFP等が主要援助機関である。

我が国は、無償資金協力および技術協力を実施しており、無償資金協力については、1985年度に「水産養殖研究センター建設計画」に対し、交換公文ベースで9億4100万円を供与した。しかし、86年度は、南イエメンでの内紛が発生し、国内情勢が不安定かつ流動的に推移していくことから、実施が延期された経緯がある。87年には、404万ドル(技術協力)を供与している。

我が国のODA実績

(支出純額、単位：百万ドル、()内は%)

暦年	贈与			政府貸付	合計
	無償資金協力	技術協力	計		
83	- (-)	0.20 (0.2)	0.20 (0.1)	- 0.09 (-)	0.11 (0.7)
84	0.59 (0.1)	0.14 (0.0)	0.73 (0.1)	- 0.87 (-)	- 0.14 (-)
85	- (-)	0.30 (0.1)	0.30 (0.0)	- 1.19 (-)	- 0.89 (-)
86	- (-)	0.10 (0.0)	0.10 (0.0)	- 1.63 (-)	- 1.52 (-)
87	5.86 (0.5)	0.07 (0.0)	5.93 (0.3)	- 1.89 (-0.1)	4.04 (0.1)

我が国との関係

年度別・形態別実績 (単位: 億円)

年 度	有償資金協力	無償資金協力	技 術 协 力
1982年度 までの 累 計	なし	10.22億円 食糧援助 (76年度, 0.92) 漁業訓練船 (77年度, 4.50) 食糧援助 (77年度, 2.59) 食糧援助 (78年度, 1.64) 災害援助 (82年度, 0.57)	2.09億円 研修員受入 9人 専門家派遣 8人 機材供与 9.9百万円
1983年度	なし	1.41億円 食糧援助 (1.41)	0.27億円 研修員受入 2人 調査団派遣 2人 機材供与 2.500万円
1984年度	なし	なし	0.45億円 研修員受入 1人 調査団派遣 5人
1985年度	なし	9.41億円 水産養殖研究センター 建設計画 (9.41)	0.58億円 研修員受入 1人 調査団派遣 6人
1986年度	なし	なし	0.05億円 研修員受入 1人
1987年度	なし	なし	0.15億円 研修員受入 3人
1987年度 までの 累 計	なし	21.04億円	3.58億円 研修員受入 17人 調査団派遣 10人 専門家派遣 11人 機材供与 12.3百万円

(注) 1. 「年度」の区分は、予算年度による。

2. 「金額」は、無償資金協力は交換公文ベースに、技術協力はJICA経費実績ベースによる。

(出所: 「我が国の政府開発援助」1988年、外務省経済協力局編)

II 生活事情

1. 食生活

1-1 食 料

(1) 一般事情

社会主义国と考えるとまず配給は?などと考えがちであるが、南イエメンの場合まったく我々がイメージする社会主义とは異なる。むしろ社会主义ということすら考えないほうがよいくらいである。ただ外貨事情が悪いため外国製品を多量に輸入できない。貴重な外貨は食糧品などの輸入に使うより、もっと国造りに直結した物をと考えているようである。それで外国人にはドル・ショップが2軒用意されているため、酒などはスコッチ・ウイスキーや高級ブランデーなどが手に入り、不自由さはない。とはいっても日本人があまり多くないため品数は豊富とはいいがたく、ましてや日本食品などは現地で一切手に入らないので、日本から携行する必要がある。野菜、果物の品数が極端に少ないので、少ない材料でいかに料理するかの工夫が必要となるが、四方を海に囲まれた地の利で新鮮なかに、紋甲いか、えびなどが手に入るので海鮮料理を楽しむことができる。また生活必需品は社会主义の良い点でべらぼうに安いし、商活動は統制されているとは思えないほど自由であるので、何ら違和感はない。

(2) 主な食料品の出回り状況

外国人はドル・ショップで最低必要物資は手に入るが、生活に慣れたたら市場に足を伸せば季節物が手に入るし、また行商人にコネをつけておけば手に入る物もある。ただ現地の人は低賃金、子たくさんで決して生活が豊かではないので、市場や現地の商店などで売られている物は、日本人が考えるような商品とは違う。また、農業技術はあまり進んでいないと思われ、小指大の人参、大根、玉子大のトマトがあるかと思うと、ばかりかいなすやかほちゃなどが並んでいる。葉菜類は少ないので自家菜園でも工夫すれば、生活の巾が一気に広がりそうだ。

イエメン人の食事の中心となる物資(小麦、パン、牛乳、砂糖、塩、食油)は政府の補助できわめて安く、町の商店で誰でも買える。

(3) 食料の入手方法

外国人の場合まず第1にドル・ショップ、次に行商人、ローカル・スーパー・マーケットそして市場、商店といった順番になろう。生活を始めると、どこから聞いてきたのか、行商人が来るし、1、2割は高いが、次の日の注文を出しておけばこんな物まであるのかと思える物まで運んで来てくれる所以大変便利である。また品質も市場で買うより数段良い

食生活

ので、活用したほうがよい。ドル・ショップでは外国製のビールは買えるがアデン産のSEERA BEERというおいしいビールは買えない。BARに話をつけておいて買うことになるが、カートン代、BIN代が高いので、空BINと交換で買うことになる。

● ドル・ショップ

Victory Co, for free Trade TEL: 32822 所在地: Khormaksar地区

市内に2カ所有する外人専用スーパー・マーケット。営業時間は8:00~12:00と16:00~18:00。木・土曜日に入荷するので、その日は大変混雑する。ドルの現金かドルの小切手でしか買えない。ほとんどの生活用品はこのドル・ショップで買うことになるが、外貨事情で入荷物も品切れになることがあるので、必要な物を見つけたら買い込んでおくことも必要。

主な販売食品リスト

酒 : フランスワイン 3.7 コニャック 14 ウイスキー ジョニ赤
375ml 8.5ドル ジョニ黒, 375ml 11 ティーチャーズ
750ml 16.5, ドイツビール24本 3ドル その他ウォッカ, ジン, シーバースなど。

肉 : 牛, 鶏, 豚, 羊など冷凍輸入品豊富。

野菜 : キャベツ, 人参, きゅうり, その他市場で売っていない物が入ってくる。

調味料 : オリーブ油, 食塩, 胡椒, 酢, 中国製味の素, マヨネーズ, タバascoなど。

乳製品 : バター, チーズ。

缶詰 : グリーンピース, いんげん, 果物, 日本製ポンジュース, その他。

菓子 : ピスケット, チョコレート, カシューナッツ, プリンの素, ドロップ等。

その他 : スパゲティー, ピーフン, ベーキング・パウダー, 米(インデカ米), ピックルス, など。

● 市場(スク)

肉 : 羊, 鶏, 牛(冷凍ではない), 玉子。

魚 : かに, えび, 紋甲いか, たい, ハムール, かつお, さより, キングスフィッシュ, まながつお等, 時期により異なる。冷蔵施設

食生活

がないため鮮度が早くおちるので、朝の内に買うほうがよい。

野菜：玉ねぎ、人参、かぼちゃ、じゃがいも、なす、大根、ねぎ、にら、トマト、とうがらし、キャベツ、モルヘア、かぼす、レモン、など。

果物：バナナ、オレンジ、パパイヤ、すいか、ぶどう、など。

● ローカル・スーパー・マーケット

各地区に大変大きく立派なスーパー・マーケットがある。しかし広さに比べ品数がきわめて少ない。値段は非常に安い。

売っている物：肉、粉ミルク、バター（ニュージーランド製）、植物油（シンガポール製）、牛乳、塩、パン粉、さば缶、ビスケット、デーツ、じゃがいも、とうがらし、にんにく、チーズ、ヨーグルト、プリンの素、歯みがき、石けん（東ドイツ製）、粉石けん（中国製）、ティッシュペーパー、ボリバケツ、サンダル、ビーチバラソル、灯油、ガスコンロ、香水、造花、衣類（台湾製）、子供服、スカーフ、下着類、ラジカセ、VTRテープ、時計など。

● 日本食品

アデンでは日本食品はまったく売っていない。日本食でなければという人は赴任時にまとめて携行するか、定期的に送ってもらう以外はない。

1-2 調理、食器具等

(1) 調理、食器具等の入手

ドル・ショップで洋式食器や以下の物が購入できる。

皿：小1.5ドル、中3ドル、大6ドル、コーヒー・カップ、皿大小8人セット85ドル。いずれも日本製。

グラス：ビール・グラス2.1ドル、ウイスキー・グラス3.8ドル、ワイン・グラス3.3ドル、ブランディー・グラス3.2ドル いずれも日本製。

鍋：圧力鍋、その他。

その他：グラム計り、スプーン、フォーク、ワインぬき、缶きり、ほうちよう、電気がま（ナショナル製95ドル）、ジューサー89ドル、電気コンロ、冷蔵庫、（フィリップ製120ℓ 470ドル、ソ連製150ℓ 400ドル）トースター65ドル、ガス・オープン 小149ドル、ガスコンロ 35ドル。

(2) 日本から持参したほうがよい調理、食器具等

和食器はまったく現地では手に入らないので、日本から持参するしかない。決して高級である必要はなく、使い捨てのつもりで使用中の物を鍋からはしまで持参すればよい。

1-3 外食

外国人が少ないこともあって外食産業はあまり発達していないが、ロブスターなどはどこのレストランでも調理しているので、けっこう楽しめる。料金も地元の人にはばか高いが日本人から見れば安いといえる額である。

表 アデンの料理店

料理・種類	店名	TEL	所在地区
中華料理	Ching Sing	43016	Maalla 地区
レバノン料理	Dhuridan	33052	Khormaksar 地区
	Nashwan	22908	Tawahi 地区
イエメン料理	Brothers	32377	Khormaksar 地区
	Red Sea	52402	Crater 地区
ブルガリア料理	Bal Kan	24376	Tawahi 地区

Gold Mohur Hotel の Panorama and Dining Room, 26th September Hotel, Chalets Complex, Crescent Hotelなどのレストランは西洋料理からイエメン料理まで巾広く楽しめる。

たとえば26th September Hotel (Roc Hotel) の8階でアデン港の夜景を楽しみながらキング・ロブスター、魚フライ、ビーフ・スープ、サラダにビールを飲んで10YD(4000円ぐらい)である。Ching Singで普通の食事を取れば2~3YD。ロブスター、えびなどを中心にフル・コースでパーティーしても1人8YDで充分である。それも現地の人々からすれば高いせいいかイエメン人の家族づれ、ソ連人をこれらレストランではほとんど見かけない。

衣 料

2. 衣 料

2-1 衣 料

(1) 一般事情

ドル・ショップでYシャツ、くつ下、パジャマ、下着、サファリ・スーツ、わずかの背広、ジーパンを売っているが、市中の店では質、デザインとも使用にたえる物は売っていない。ただ一年中気温が高く、ほとんど夏物だけで良いし、イエメンの高官も気楽な身なりをしているので、衣料に気をくばる必要はない。

(2) 日本から持参したほうがよい衣料

現地で購入できる物はほとんどないので、必要量を持参する必要がある。

2-2 礼 装

(1) パーティー

イエメン人に招かれたとしても、服装にはまったく気を使う必要はない。

外国人同士でも差ほど気にすることはないと思うが、男性は夏物背広1着、女性はロングドレス1着あれば、何かの時に安心かも知れない。イエメンの女性はほかのアラブ諸国からすると開放的だが、足を見せる服装はしていないので外国人もあまり素足をむきだしにするのは好ましくない。

(2) 式 典

男性の場合はサファリ・スーツがあればそれですべてこと足りる。なくても半そでのYシャツで充分である。女性が式典に招かれることはまずない。

(3) その他の冠婚葬祭

葬儀に参列することはまずない。結婚式には招かれることがあるかも知れないが、服装にはあまり気を使う必要はない。

2-3 洗濯、仕立て、修繕、保管

(1) 洗 濯

クリーニング店は発達していない。自分でしても夏物だけなのであまり苦にならない。

衣 料

(2) 仕立て,修繕店

仕立て屋は多数あるが技術,材料がよくないのでまったく期待できない。

(3) 保管

海の近くなので湿度が高い。保管に気を使うような物は持って行かないほうがよい。

住 宅

3. 住 宅

3-1 住宅事情

(1) 一般事情

国有がほとんどで、国有アパートは4LDKで月に5YDときわめて安い。私有も有るが外国人に直接貸すことはない。JICA派遣の専門家は南イエメン政府から提供された住宅に入ることになるので心配ない。

(2) ホテル事情

施設は良いとはいえないが、白いシーツ、クーラーのきいた部屋を提供してくれるホテルは以下のとおり。

ホテル名	TEL	所在地区	料 金	特記事項
Aden Frantel	42911	Khormaksar	31YD	現在修理中 営業していない
Gold Mohur	24171	Tawahi	28YD	海辺でビーチ良い
Chalets Complex	31301	Khormaksar	14YD	
Cresent	23471	Tawahi	7YD	
26th September	22266	Tawahi	8YD	
Ambassador	24403	Tawahi	8YD	

(3) 住宅の捜し方

受入省に依頼し、住宅省から提供を受けることになる。個人で捜すことはない。

(4) 住宅の契約

無償提供住宅であるのであまり契約を気にすることはない。

住 宅

(5) 居住上必要な事項

無償提供住宅で一応は家具クーラー付きとなっているが、いかんせん物資の不足している国であるのであまり期待しないこと。ウインド・クーラーの音がうるさいことなどはあたり前のことであるし、現在蛍光灯が市中ないので電気が切れたら当分ははだか電球でも我慢する必要がある。

(6) 下宿

イエメン人の家に下宿することはまず不可能である。久保田建設のキャンプに1人下宿している人がいるというが長期間は無理である。

(7) 光熱・水道

電力事情はきわめてよくなつた。1年中停電することはまずないが、電気代は国の補助がないため当国にしては高い。3カ月ごとに請求が来るが一般家庭で月30~50YDである。それでも小口使用者には安くなるような計算方式が取られている。

TEL: 24821 所在地: Hedjuff地区

100kw/hまで 0.16YD/kw

次の100kw/hまで 0.27YD/kw

その次の100kw/hまで 0.50YD/kw

水道も断水することはないが硬水で塩分が700PPM程度はある。石けんのあわ立ちがわるく、長期滞在者にはそのまま飲むことはすすめない。ドル・ショップでミネラル・ウォーターを買って来るか一旦沸して飲むことを勧める。水道代はきわめて安く、1ヶ月一般家庭で3~7YDぐらいである。2ヶ月に一度請求が来る。

600M²まで 無料

6600M²まで 0.030YD

それ以上 0.065YD TEL: 53551 Crater地区

燃料はプロパン・ガスが主流、サウディ・アラビアから輸入しているが値段はきわめて安い。20kgで2YD(配達料込み)

Gas TEL: 32341 所在地: Khormaksar地区

52991 Crater 地区

24834 Tawahi 地区

医 療

4. 医 療

4-1 赴任前の準備

(1) 予防接種

制度的に入国時必要な予防接種はない。風土病もない。若干の結核とハンセン氏病がある程度なので、特に予防接種や病気に対する必配はいらない。子供の予防接種(BCG, ポリオなど)もChildren Hospital等で受けられる。

(2) その他赴任前に準備したほうがよい事項

歯科治療はAL-Gamhouria病院で受けられるが(国立,無料)。イエメン人医師であり、あまり期待できないので赴任前に完治しておくことを勧める。眼鏡も現地ではよい物を買えないでの必要量携行することを勧める。また薬はほとんど輸入品で日本人には強すぎる時があるので、常備薬は携行すべきである。

4-2 医療事情

(1) 医療機関

医療水準は残念ながら高くはない。また物資が不足していることから十分な治療を受けられないと思わなければならない。幸いにして風土病や、病害虫もほとんどないため病気になることはあまりないが、それでも高温多湿の国であるので健康管理には十分注意したい。

表 アデン病院の一覧

病院名	TEL	所在地区	備考
AL-Gamhouria Hospital General Private Section	33033 32835	Khormaksar Khormaksar	最近460ベッドを改修、新機材も導入された
AL-Sha'ab (Chinese Hospital)	51992	Crater	200ベッドを中国の協力で完成
Abood Maternity Clinic	31311	Khormaksar	
Children Hospital	82128/9	AL-Mansoura	

医 痘

(2) 緊急時の対応と措置

緊急の場合は目当ての病院に自家用車で連れて行くほうが速いが、救急車も呼べる。

TEL: 33033で AL-Gamhouria Hospitalから呼び、同病院に行くことになる。

4-3 医薬品等

(1) 携行することが望ましい医薬品

現地では一切医薬品は製造されていないので、輸入品ではあるが、一般的に強い。日本での生活で必要と思われる医療品は携行するほうが望ましい。

(2) 任国で調達できる医薬品

それなりに調達できるが、東側諸国の薬も多く、日本人には馴染みがうすく使用しづらいので、現地調達はあまり期待できない。

表 アデンの薬局名

薬局名	TEL	所在地区
AL-Ma'aroot Pharmacies	41453	Maalla 地区
National Pharmacies	43913	Maalla 地区
	24912	Tawahi 地区
	53522	Crater 地区

(3) 任国で調達できる衛生用品

一応は購入できるがサイズなどにも問題があるので、必要量は携行することが望ましい。現地の避妊はビルが主流で薬局で購入できるが使用を勧めるには不安が残る。

4-4 妊娠、出産、育児

(1) 妊娠した場合の対応

総合病院もあり、正常分娩なら出産も問題ないと想われるが、今まで日本人で当地で出産した例がないので実態はよく解らない。

Abood Maternity Clinic TEL: 31311 所在地: Khormaksar地区

医 療

(2) 出産後の対応

母子検診は義務付けられてはいないが、予防接種等病院で受けられる。

Children Hospital TEL: 82128~9 所在地: AL-Mansoura地区

(3) 育児

粉ミルク、育児用品も一応は売っているが輸入品なので切れる時がある。日本から送付、持参するほうがよい。

気候的には軽装でよいので伸び伸びと育児ができるかも知れないが、クーラーのききすぎが、かぜのもとになるので注意したい。蚊やはえもさほど多くなく衛生的には問題ない。

4-5 手 術

(1) 任国で可能な手術

日本人の事例がなく、何が可能とはいいがたいし、物資のとぼしい国だけに可能な限り現地で手術をすることは避けたい。

(2) 手術設備の状況

外貨不足の国であるので近代設備が完備しているとはいがたい。しかし社会主義国の特長ともいえようか、国勢の割には力を入れており、病院新設計画も多数あるので年々改善されよう。

4-6 任国でよくかかる傷病

(1) 一般の疾病

栄養状態さえ保てば疾病にかかる心配はほとんどない。気候の変わり目、クーラー、扇風機のかけ放しによるかぜ、軽い下痢を注意すればよく、衛生状態も悪くはないので心配ない。

(2) 風土病、伝染病

風土病などはほとんどないので、あまり気にすることはない。山間部にマラリアがあるというがアデンでは心配ない。

(3) 有害動物、病害虫

市内で見られる病害虫等は、蚊、はえ、ねずみ、ごきぶりぐらいでその数は意外に多くない。1匹蚊がいると限れない人や小児のいる人は蚊取り線こうやペープ・セットを携行するとよい。あえていえば、海にさめが出るという話もあるが、最近被害にあったという話は聞かない。

医 療

4-7 保健衛生

保健衛生上留意すべき事項

一般の衛生環境は、さほどわるくはないので特に留意する点はないが、昼寝、早寝を心掛け十分バランスのよい栄養を取ることである。魚貝類が豊富であるが、輸送、保存状態は保証されないので、自分の目、知識で確めて食用することぐらいである。

参考 アデンの医師 U.N. EXAMINING PHYSICIANS

医 錄 名	TEL	病 院 名
Dr. Abdurahman Abdulla (Medical Specialist)	33033	Jamouria Hospital
Dr. Ali AL - Nawii (Surgical Specialist)	33033	Jamouria Hospital
Dr. Nasser Ali Nasser (Obstetrician)	31311	Abodd Hospital

教 育

5. 教 育

5-1 教育事情

(1) 一般事情

イエメン民主人民共和国の教育制度はクラス1~6(小学部)7~11(中・高部),その後軍隊に2~3年入隊した後,大学となっている。除隊後は海外留学制度も多数ある。多くはソ連に留学し,毎年500名程度チャーター機で行く。教育には力を入れているが施設は十分でなく,二部制がほとんどである。小学校から大学まで無料の国立制がほとんどであるが有料の私立も少数ある。

(2) 日本人学校

常駐在留邦人がきわめて少なく,現在対象児童もないこともあって日本人学校および日本語補習校もない。

(3) インターナショナル・スクール

アメリカン・スクールがある。現在生徒数は約300名教師は15~6名で主にインド人である。現地小学校の施設を使用し午後の部で開校されている。授業料は5YD/月,入学金5YD,一応スクール・バス5YD/月もあるが運行地域が限られ,アツラ,タワヒ,コルマック地区のみであるので,各国とも大使館,企業等が独自のスクール・バスを運行している。同学校で外国人のための(英語の)幼稚園(2年制)も運営されている。新学期は10月。

International School TEL: 31568 所在地: Khormaksar地区

(4) 幼稚園

上記のインターナショナル・スクールにある。

5-2 入学手続きおよび授業料

5-3 教育関係施設

図書館のような物は見当たらない。国立軍事博物館がイギリス植民地からの独立のもようを展示しているし,国立博物館が2000年の歴史出土品を展示している。特に大理石のオベリスク,壁画文字は一見の価値がある。

教 育

5-4 家庭学習

(1) 家庭教師

外国人が少ないとから英語の話せる家庭教師を探すことは困難である。しかしイエメン人の大学生、もしくは時間にゆとりのある邦人にたのめば不可能ではない。

(2) 通信教育

日本人学校、補習校もないので、出発前に通信教育の手続きをしていくことを勧める。

海外子女教育財団 TEL: 03-580-2521

住所: 東京都港区虎ノ門1-21-17

虎ノ門NNビル6階

(3) 携行したほうがよい学習教材

現地では一切手に入らないので必要な物はすべて携行すべきである。

家庭の使用人

6. 家庭の使用人

6-1 一般事情

イエメン人は気位いが高いため、個人の使用人になることを良しとしない気質がある。長い期間イギリスの植民地でイギリス人に使用されていたことによる反動かも知れない。そのため使用人はソマリア人が多い。

メイド、ベビーシッターを雇うことは困難ではないが、労働省の斡旋を受ける必要がある。メイドで60YD/月、運転手で100YD/月程度である。英語ができる使用人となると割高になり、数も少ない。ボーイを雇う場合はメイドより簡単であるが、やはり労働省の斡旋が必要。斡旋、紹介されて来た人を面接し断ることもできなくはないが、ほとんどの場合採用することになるし、労働省と契約するためよほどの事がない限り解雇できないと思ってよい。紹介されて来る者は、運転手以外はソマリア人なので料理は期待できない。

使用人に対するこつは完全を求めるないこと。1月2万4000円程度なのだから日本の3分の1でも働いてくれたら儲け物と気楽に考えることである。パーフェクトを期待し、たとえば味つけ、洗濯、掃除などその都度注文をつけ、注意し、そのあげくできない、やらない、と愚痴るようになると双方の不幸である。反対にはれ物にさわるようにし、毎日日本人と同じ食事を食べさせたところ、それが苦痛で逃られたなどという話もあるのでむずかしい。

6-2 運転手

(1) 雇用

運転手はイエメン人が多く、スピーディに雇用することができるが、雇用はやはり受入省を通じ労働省に斡旋してもらう。英語ができる運転手はほとんどないので期待できないが、イエメン人なので色々な場面で役に立つことが多い。相手が英語ができない場合は、自分のほうがアラビア語の数語を覚えてしまえば問題ない。真すぐ「アラトル」、右にまがれ「ヤミン」、左「ヤサール」、それに止まれ「カッフホナ」、行け「ヤッラー」、待て「インタザル」、ここで待て「インタザル ホナ」、そして最後に「ショクラン」ありがとうといえば、運転手は気持ちよく「アワシ」といういたしまして、とニッコリしてくれる。

行き先の困難な場所は、英語のできる人に事前に伝え、運転手に目的地、行き先名をアラビア語でいってもらうこと。地図はまず読めないので、地図があるからと飛び出すととんだことになる。

(2) 日常管理

アラブ系の特長の1つに「言い得」という面がある。日本人の常識では考えられないことまで要求して来る時があるが、許せないと思ったらはっきり断ること。一度許すと既得権的になり、次に断ろうものならなぜ駄目だと食い下がられるのでご用心。契約社会なのだから温情は禁物。“契約したこと”“使用する”ことと見下すこととは別で、特にイエメン人はプライドが高いので要注意。しかし親切だし、こそどろをしたりしないので、日常管理に比較的困難ではない。

(3) 教育指導

最初が肝腎。契約なのだから、運転手には酒を飲ませない。時間を守らせる。始業点検を行わせるなど最初からきちんとさせること。気心を知ってからだんだん厳しくなどと考えたら失敗する。通常運転手はメカに弱いので、始業点検は何度もやって見せて教えること。スペアーパーツの不足の国、思わぬ故障を起さぬようにするためには始業点検は意外に有効。

(4) その他の留意事項

いくら泥棒はしない、治安がよいといっても、彼らが欲しくて仕方のない物を無神経に放置しておいて、あとで紛失したと追求することはどうかと思う。きわめて物資の不足している状況を常に忘れず、物品管理は使用者側がきちんとすべきである。きちんとさえしておけば、物を紛失したり、取られるということのない素晴らしい国である。

6-3 メイド/サーバント

(1) 仕事の種類と人数

ベビー・シッターがどうしても必要などの事情がある人以外は、メイドやサーバントを雇用する必要はない。イエメン人の婦人は気位いが高く、この種の職業にはつきたがらない。雇うとしてもソマリヤ人となるし、メイドを使いなれない日本人はメイドを使うことに疲れてしまうのがおちである。

(2) 雇用

メイドの場合も受入省に依頼し、労働省に斡旋してもらう。

(3) 日常管理

運転手の項と同じ。

家庭の使用人

6-4 庭師, ガードマンなどの雇用

きわめて治安がよいので、ガードマンを雇用する必要はない。庭の管理も他にあまりやることがないのだから、趣味程度に自分で管理することをすすめる。

7. 交通事情

7-1 交通手段

(1) 一般事情

アデン市内でさえ信号が数えるほどしかないので、道巾が広くはないが、それほどの渋滞が起きることはない。つまり絶対量が少ないので、交通手段がバスとわずかのタクシーしかないので、自家用車は必需品となる。道路自体があまりスピードを出せる道路ではないが、人口35万人の小さな町なのだから、あまり急がずスピードさえ出さなければ交通事故の不安もない。

(2) 自家用車を利用する場合

左ハンドル、右側通行である。女性の運転も認められているし、国際免許証を持参すれば比較的簡単に現地の免許証に書き換えができる。ナンバーが色々な色に分けられており、黄ナンバーの官庁車は木曜日は運行できないので注意。特別の運行許可証を携帯すれば運行は可能だが、何度も警察に止められる。グリーン・ナンバー(外国人用、無税輸入車)の場合は木曜日も運行できるし、グリーン・ナンバーには現地の警察も甘いので、グリーン・ナンバーを取得することを勧める。治安がよいのでかぎさえかけておけば、中の物を盗まれることもない。ただ外貨不足からスペアーパーツが揃っているとは限らないので、まず事故を起こさないこと。そして車を選定する場合はポビュラーな車にすることである。現在のアデン市内の乗用車は3分の2はトヨタ車で、最近イスズ・ジェミニの四輪駆動車が増えて来た。ガソリンは1ガロン(4.55ℓ)1YDと日本より安い。JICA派遣専門家の場合は、免税輸入が認められている。受入省によっては24時間使用可能の公用車の提供を受けられる場合もあるが、絶対数が少ないので、自家用なり、機材供与なりで、手当ですることが望ましい。また先方提供車といえども事故等発生した場合の補償問題が不明確な点もあるので、自動車保険に加入することをお勧めする。

自動車保険

National Insurance & Reinsurance Co.

TEL: 52464, 51464 所在地: Crater地区

クラウン 2000ccクラスで年間保険料は170~200YD

交通事情

(3) レンタ・カーを利用する場合

レンタ・カーは発達していない。JICA関係の場合は先方政府から必要事柄の提供を受けるか、長期調達などの場合は携行し終了後は先方政府に供与することが望ましい。

(4) 道路マップ

道路マップは市販されていない。しかしアデン市は小さいので道に迷うこともなく、すぐに覚えられる。

7-2 交通事故

(1) 対処方法

人身事故については刑法の適用があるが、対物事故または補償のほうは保険に入っているれば問題ない。いずれにしろ警察にすぐ連絡することである。

Police Station	TEL: 32411	所在地 : Khormaksar地区
	TEL: 52831	所在地 : Crater 地区
	TEL: 42689	所在地 : Maalla 地区
	TEL: 24471	所在地 : Tawahi 地区

(2) 救急病院

救急車を有しているのはAL-Gamhouria病院である。ここに電話をして呼ぶ訳けだが、自分の車が使えるような場合は、同病院に運ぶほうが早い。

Ambulance (AL-Gamhouria Hosp)
TEL: 33033 所在地 : Khormaksar地区

(3) 盗難

イスラム教国のよさか、盗難の心配はほとんどない。

7-3 交通違反

(1) 交通法規

数えるほどの信号やCrater地区に一方通行がある程度で、全般的には困難でも厳しくもないが、信号を見落としたりする(信号位置が低く、場所によって高さが違う)と思わぬ事故にあうので、とにかく慣れないうちはスピードを一層おさえることが大切である。

交通事情

7-4 車の修理

修理技術は高くなく、また部品も揃っているとは限らないので、まず事故を起こさないことである。現在トヨタが部品管理のコンピューター・ソフトを導入しているそうだが、管理上だけではなく外貨事情の悪さか、必要になってから輸入することも多いので、一旦事故を起こすと何カ月も修理にかかる場合もあることを承知しておく必要がある。

Fiat Garage TEL: 23828 所在地: Maalla地区

Home Trade Garage TEL: 41241/41752 所在地: Maalla地区

Land Transport Corporation TEL: 24457/8 所在地: Maalla地区

Volvo Garage TEL: 24550 所在地: Maalla地区

通 借

8. 通 借

8-1 電 話

(1) 一般事情

施設が古いこと、外貨不足のためよい状態とはいえない。回線数も非常に少ないとから新設などは非常に困難だが、商業活動があまり活発でないため、国内業務上はさほど不自由はない。交換台を通している場合が多いいため、FAXは使われていない。

(2) 国内線、国際電話

アデン市内はダイヤルであるが、地方、国際電話は交換を通す必要がある。

Telephone	TEL	所在地区
General Enquiries	0	Maalla地区
Control Exchange	22811	Maalla地区
Complaints	91	Maalla地区
Telephone Testing	98	Maalla地区
International Call	93	Maalla地区

(3) 電 借

テレックスが主流である。これも回線数が少ないので新設は困難である。一般的には受電はホテルや官庁のテレックスを使い、打電の場合は電信・電話局に行く。

Yemen Telecommunication Center (Telex/Telegram)	TEL	所在地区
General Office (Operations)	22225	Tawahi地区
General Manager Office	22454	Tawahi地区

通 信

8-2 郵 便

(1) 一般事情

すべてP.O.BOX制。配達制度はない。日本との間は週1便しかないので早いと1週間、平均すると2週間である。ちなみにアメリカとの間では3、4週間を要する。時々紛失することもあるので、よくフォローしておく必要がある。

(2) 課 稅

ポルノ、風俗雑誌は禁止だが、ほかのアラブ諸国よりはゆるやかである。一般的にはあらゆる物に課税される。たとえばカレンダーも10部以上になると出版局の許可を取った上で、かつ税関に關税を払って受け取ることになる。JICA専門家の場合は特別臨時輸入許可証が与えられるが、郵便小包み1件1件まで適用されるか不明なので、よく調べて対処する必要がある。

	TEL	所在地区
Post Office	32407	Khormakser 地区
	43152	Maalla 地区
	53434	Crater 地区
	23696	Tawahi 地区

マスコミ

9. マスコミ

9-1 新聞

(1) 主な日刊誌

アラビア語誌は「アルバーターシアオクトーバー(10月14日)」が日刊で発売されている。年間15.4YDと安いが情報省の傘下にあるためニュースはかなり統制されている。そのほかに週刊の軍の機関誌「赤い星」と党の機関誌「アッソーラ(革命)」がある。1部500フィル。

英語誌は新聞らしい体裁の物はないが「English Daily Bulletin」というA4版タイプ打ちで12~15ページの物が日刊されている。1部1YDと高いが配達付きである。

Aden News Agency TEL: 23827/24285 所在地: Tawahi地区

9-2 ラジオ

(1) ラジオ・ジャパン

受信時間はAM11:00~11:30 21695KHz, PM7:00~8:00 21700KHz, AM1:00~2:00 11800KHzであるが、AM11:00の放送がガボンのモヤビ中継できわめてよく入る。1カ月に4,5回聞きにくい時もあるがそれ以外の日は小型のラジオ、シャープFV310型やソニーICF7600型でもよく聞こえる。また現地でもナショナル製がドル・ショップで売られている。

(2) その他の外国放送

BBCがよく入る。カーラジオで聞けるほどである。

9-3 テレビ

1チャンネルだがカラー放送をしている。受像機はPAL西独方式。午後7:00~7:15は英語のニュースもある。また場所によっては北イエメンの放送が入る所もあり、このほうが面白いそうである。受像機は、ドル・ショップでナショナル製が売られている。19インチで680ドル。

教養, 娯楽, 趣味; スポーツ

10. 教養, 娯楽, 趣味, スポーツ

10-1 映画, 演劇

(1) 映画館, 劇場

劇場はあまりないが映画館は多数あり, 入場料も安い。放映されている物はエジプト製のアラビア語版はともかくとして, アメリカ映画(字幕スーパーがアラビア語), 日本製のアニメ(ハイジやベルバラなど), ソ連製のアニメなどバラエティーに豊んでいるので, 催物を注意しているとけっこう楽しめる。またブリティッシュ・クラブでは, 週2回映画会を催しているし, バーもあり社交の場にもなっているので, 是非入会するようお勧めする。英國大使館も歓迎してくれる。

British Embassy Club TEL : 32711, 32713~4

所在所 : Khormaksar地区

10-2 出版, 書籍

(1) 一般事情

出版活動は活発ではなく, 外国の書籍も販売されている物はきわめて少ない。

	TEL	所在地区
14 October Stationary Division	23001	Tawahi 地区
Eastern Print Press	53768	Crater 地区
Kucky Print & Stationary	52762	Crater 地区

10-3 語学学習

アデン学院(私設)で外国人のために常時間校されている。コースは6ヶ月コース。家庭教師も大学生などに頼めば不可能ではない。

10-4 文化活動

一般的に活発ではない。

10-5 写真, ビデオ

写真の現像はできるが, クウェイト, サウディ・アラビアに送って現像しているので1枚500フィルと割高で時間がかかる。VTRショップもある。

教養, 娯楽, 趣味, スポーツ

10-6 娯楽, 遊戯等

(1) 娯楽, 遊戯, ゲーム

地元の人はドミノを楽しんでいるようであるが, 日本人の場合は海を利用しての海水浴, 釣り, 潮干狩りが中心となろう。しかし飲酒が自由な当国ではディスコやbingoゲーム・バーなどもあるので少しこは息ぬきができる。昔はアデン・ホテルにカジノがあったというので, イスラム数国としては異例な国ともいえる。しかし女性が対応してくれる飲み屋はないので, あまり期待しないこと。フラミンゴを追いかけながらの潮干狩りは当地ならではの楽しみである。

アデンのクラブ

クラブ名	TEL	所在地区	備考
Night Club Casino	31388	Khormaksar 地区	生バンド, ウエイトレスがいる。女性客が1割
Bureika Club	76403	Little Aden 地区	レストラン・バー, 各種スポーツができる
Gold Mohur Bathing Club	22342	Tawahi 地区	専用ビーチ, レストラン
Yemeni Club	22172	Tawahi 地区	専用ビーチ
ARC Club		Little Aden 地区	テニス・コート, ピリヤード, ピンポン, バー

また現在東ドイツの援助で海洋レジャー・センターが建設中で, まもなく完成する予定。

なお釣り道具は簡単な物は現地で手に入るが, 質のいいものではなく, また種類もほとんどないので本格的に楽しもうとするなら, 日本から携行するほうがよい。

教養, 娯楽, 趣味, スポーツ

10-7 スポーツ

(1) ゴルフ

Little Adenに1ヵ所、12ホールバー48のコースがある。クラブハウスではお酒も飲め、ゴルフの後でビールでのどをうるおすこともできる。プレー代も2YDさえ出せば誰でもできる。クラブは現地では売っていないので携行するほうがよい。キャディーはいないのでカートも必要。フェアウェーは砂地なのでマットは不要。景色もよく、中心地から30分で行けるので、仕事の終った後毎日ゴルフも夢ではない。

(2) テニス

あまり盛んではないがARC Clubなどにコートもあり、受入省を通じて会員になることは可能。

(3) スイミング

Yemeni Clubなどの専用ビーチで、もっぱら海水浴となるが、泳ぐだけなら四方が海でどこでも泳げる。

(4) その他のスポーツ

最も盛んなスポーツはサッカー。クレッターグラントで毎週のように試合が行われているので、観戦が楽しめるし、テレビも毎週世界のサッカー試合を放映している。バレー・ボールは盛んである。

その他のサービス

11. その他のサービス

11-1 美容院

下記美容院はいづれも私営である。そのため当地にしては2~15YDと高い。ドル・ショップにもシャンプー、リンスは売っていないので、持参するほうがよい。

美容院名	TEL	所在地区
Shakila Saloon	43100	Maalla 地区
Zakoo	51753	Crater 地区
Rasheed Hair Dressing	33250	Khormakser 地区

11-2 理髪店

市内に多数あるがカットのみであまり時間もかからないのにいつも混雑している。

観光

12. 観光

12-1 地方旅行上の注意事項

国内旅行といえど旅行許可が必要。行く前には必ず受入省を通し旅行許可証を取ること。持参しないとMukallaまで行って飛行場から出られなかつたという話もある。国営観光公社が各種ツアーを組んでいるので多少割り高だが同ツアーを利用するとよい。アデン市を離れる場合も旅行許可証が必要とのことなので、受入省とよく相談すること。

12-2 主要観光地

Mukallaの石造り高層建築美、ソコトラ島のアダムとイブの木などが見どころか。アデン市の中でもフラミンゴの群棲する遠浅海岸、岩の切り立った海岸など風光明媚なところが多い。外国ではあるが一大リゾート地ジブティまで飛行機で45分、週4便飛んでいる。

12-3 旅行

国内旅行は地方に行くと道路が悪いので遠距離旅行は航空機がよい。MUKALA/RIYANまで1時間毎日1~2便飛んでいるし、SEIYUNまで1時間40分ほぼ毎日飛んでいる。

12-4 航空会社

次ページ航空会社が乗り入れているが、リコンファームなどは店に出向いて航空券にスリップを張ってもらう必要がある。

觀 光

航空会社名		TEL	所在地区
AEROFLOT	Booking office	43688	Maalla 地区
AIR FRANCE/AIR DJIBOUTI	Airport Booking office	33565 43508	Khormakser 地区 Maalla 地区
AL YEMDA	Head office Booking office Airport office Freight office	31888 53966 31060 31514	Khormaksar 地区 Crater 地区 Khormaksar 地区 Khormaksar 地区
ETHIOPIAN AIRLINES	Bookin office Airport office	22138 31571	Tawahi 地区 Khormaksar 地区
KUWAIT AIRLINES	Manager Booking office Airport office	43265 43266 31728	Maalla 地区 Maalla 地区 Khormaksar 地区
MIDDLE EAST AIRLINES	Manager Booking office Airport office	43194 43248 31728	Maalla 地区 Maalla 地区 Khormaksar 地区
SAUDIA	Booking office Airport office	43436 31576	Maalla 地区 Khormaksar 地区
YEMENIA	Booking office Airport office	53848 31017	Maalla 地区 Khormaksar 地区

治安,緊急時心得

13. 治安,緊急時心得

13-1 暴動,クーデター等

1986年1月13日の内紛が記憶に新しく懸念される向きもあるが、現在のところ不穏な動きもなく安定している。86年1月の内紛も外国人総引き上げが大々的に報道されたが、内紛地域は限定されていた。

アデン市の地形、狭さからあのような事態になったと思われ、現に当時30分離れた Little Aden 地区には何ら被害が及ばなかった。

ただ内紛当時10日間程度断水し困ったので、飲み水、生活用水の溜め置きに心掛ければ万全である。また最近は物資も徐々に多くなって来ており、政府に対する批判的声も少なくなって来ている。

13-2 強盗、盗難

(1) 一般的治安状況

一般的治安はすこぶるよいといえる。強盗被害などあまり聞かない。

(2) 防犯対策

特に必要はないが地元の人の生活は決して豊かではないので、高価な物を放置したり、ルーズな生活振りを見せないなどの最低の心掛けは必要。

13-3 火災、風水害、地震

(1) 一般的災害発生状況

風水害、地震はない。あえていえば火災であるが出火しない心掛け程度である。消防署もあるがあまり期待できない。

Fire Brigade TEL: 42225 所在地: Maalla地区

出入国手続きおよび帰国手続き

14. 出入国手続きおよび帰国手続き

14-1 入国情

(1) 空港施設概要

滑走路はソ連の援助により3,400メーターもあり、空港ビルはフランスの援助により建設された近代的ビルである。1日10便程度なので規模は大きくないが、コンパクトにまとまっていて解りやすい。重要なことは外貨持ち込み登録をすること(税関申告書に記入)。登録した範囲内でドル免税店で買物ができるので実益もある。ドル・フリー・ショップは空港内税關検査所の横にあるのでそこで買う。入国情時に免税で買える空港はそこぶる珍しい。荷物検査は厳しいほうですべて見られる。ダンボールで持ち込むと特にチェックが厳しい。

(2) 外国人登録

入国情スタンプに48時間以内に外国人登録をすることとのスタンプを押されるので要注意。24時間以上滞在する者に義務付けられている。写真2枚必要。受入省の人が代行してくれると思うが自ら注意をしておきたい。

(3) 銀 行

銀行は国立銀行のみであるがドル口座、YD口座とも開設は可能である。ドル口座とはいえど3分の1は現地貨に換金せよとのルールがあり、ホテルやドル・ショップはドルもしくはドル小切手しか通用しないので、口座運営を上手にやらねばならない。銀行の開店時間は土曜日から木曜日まで8:00~12:00、金曜日は休み。

NATIONAL BANK OF YEMEN

銀 行 名	TEL	所在地区
Main Branch	52481	Crater 地区
Airport Branch	31094	Khormaksar 地区
Maalla Main Rd Branch	43409	Maalla 地区
Queen Arwa Rd Branch	53501	Crater 地区
Saila Road Branch	51632	Crater 地区
Steamer Point Branch	22251, 22255	Tawahi 地区

出入国手続きおよび帰国手続き

14-2 出国時

(1) 施設

入国時と同様シンプルなので解りやすい。出国ビザが必要なのでかなり前から受入省に依頼しておくこと。緊急の場合でも持ち回りで半日はかかるそうである。空港利用税は外交、公用は免除だが一般旅券者は1,250YDが必要。

14-3 帰国手続き

(1) 帰国時に必要な事務手続き

出国ビザ。その他については受入省とよく相談のこと。

(2) 車の処分

免税特権を持っている者に売ることが最も望ましいが、特権者がきわめて少ないとから期待うすである。関税分を払って現地の人に売ることはできるが、高価になるので買い手がきわめて少ない。持ち帰えるには日本直行の船がほとんどないので高くつき意味がない。このことから後任者がない場合は受入省に無償供与するぐらいの覚悟が必要のようである。

(3) 家財道具の処分

免税で持ち込んだ物は車の処分と同様と考えてよい。現地ドル・ショップで買った物は地元の人にも売れるが値段はあまり期待できない。

(4) 住宅の明渡し

(5) 銀行口座の閉鎖

一応はドル持ち出しもできることになっているが、送金された額の3分の1は現地貨に換金しなければならないというルールがあり、一方現地通貨からドルへの換金は困難なので、必要金額以上ドル送金を受けないほうがよい。

私財の輸送、引取り、購入

15. 私財の輸送、引取り、購入

15-1 家財道具

(1) 輸送業者等

搬入の場合は比較的スムーズであるが、船便は日本からの定期便がないのでクウェイト、ジェッダ等で積み換えて来るため、かなり日数を要する。エア・カーゴはその点速く、エール・フランスが最も安全かつ速いようである。専門家には臨時輸入許可証が与えられるので受入省に相談し手伝ってもらうこと。

	TEL	所在地区
National Shipping Co	24861	Tawahi 地区
Thabet Sons & Co(パッキングも行う)	43177	Maalla 地区
Amity Investment & Consultancy	43238	Maalla 地区

15-2 自動車

持ち込む場合はトヨタもしくはイスズに相談のこと。

社 交

16. 社 交

活発ではないが他の外国人も少人数が多く、家族的交際ができる。

任国公官庁

17. 任国公官庁

執務時間は7:30~14:00, 木曜日は7:30~12:00, 金曜日が休みときまつているが, 実質的には8:00~13:00ぐらいと思えばよい。

官 府 名	TEL	所在地区
Prime Ministers Office	24242	Tawahi
Agriculture & Agrarian Reform	32611	Khormaksar
Communications	23497	Tawahi
Culture & Information	23831	Tawahi
Construction & Housing	33411	Khormaksar
	43611	
Defence	23801	Tawahi
	32611	
Education	82111	Madinat Asha'ab
Finance	51145	Crater
	53269	
Fishwealth	22687/8	Hedjuff
Foreing Affairs	82131	Madinat Asha'ab
Health	31111	Khormaksar
Industry Trade & Supply	42711	Maalla
	42712	
Interior	51801	Crater
Justice	24161	Maalla
Labour & Civil Service	42711	Crater
	53343	
Local Government (General Department)	53575	Crater
National Security	24181	Tawahi
Planning	22235/6	Tawahi

イエメン民主人民共和国の祝祭日

LIST OF 1988 OFFICIAL HOLIDAYS

* New Year's Day	1 January
International Women's Day	8 March
Al - Miraj (Prophet's Ascension)	15 March**
* Labour Day	1 May
* Eid Al - Fitr (Feast of Ramadan)	16, 17 May**
Corrective Move	22 June
* Eid Al - Adha (Feast of Sacrifice)	22, 23 July
Islamic New Year	13 August**
Revolution Day	26 September
* National Day	14 October
* Prophet's Birthday	23 October
* Independence Day	30 November*
* Official holidays observed by the UNDP	
** Subject to change depending on the lunar phase	

在外日本関係機関等

18. 在外日本関係機関等

18-1 機関名、住所、電話番号、執務時間

在イエメン民主人民共和国日本大使館

Embassy of Japan, Crescent Hotel, Room 17; Steamer Point, Aden,
People's Democratic Republic of Yemen
(P.O.Box 1186 Steamer Point, Post Office Aden.)

TEL: ホテル代表 23471, 23472, 直通24426

電略 TAISHI ADEN あて名コード MINAMIYEMEN

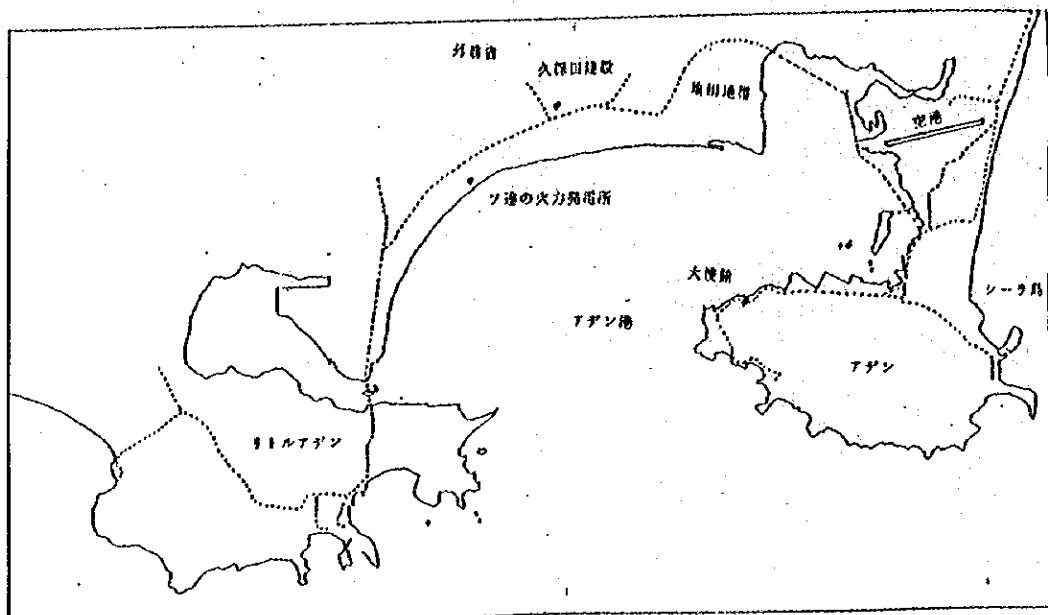
Telex: 2500YD YTCTA TAISHI ADEN (電信局気付・配達)

地方都市

19. 地方都市

アデン市略図

20. アデン市略図



アデン市およびその周辺の地図

任国情報をご利用の皆様へ

この任国情報は、国際協力のために赴任されるJICA長期派遣専門家、JICA職員等の方々に、任国での生活上必要な最新の情報を提供する目的で作成されました。

本書の原データは国際協力総合研修所内のデータベースに蓄積されており、新しいデータが入手され次第、逐次更新できるシステムにしております。

現在までに、下記の国々について任国情報が整備されております。

なお、政府技術協力のために赴任するJICA役職員および派遣専門家は、技術協力協定や要請文書などの外交関係により、任国への入国および滞在にあたって特別の条件が付され、一定の義務が免除されるなどの特権が付与されています。本情報はこれらの条件に基づいた赴任マニュアルです。したがってご利用はJICAの用務による業務渡航者に限らせていただいております。

また、本情報は外国人専門家という特殊なステータスによる生活ガイドであって、それぞれの国の人々の一般的な暮らしぶりを紹介するものではありません。各國の一般的な各種事情については、JICA図書館に多数資料をそろえておりますので合わせてご利用ください。

— アジア地域 —

1. 中国
2. フィリピン
3. ブルネイ
4. インドネシア
(ジャカルタ、バンドン
ジョクジャカルタ、メダン)
5. シンガポール
6. マレーシア
7. タイ
(パンコク、チェンマイ、コンケン)
8. ピルマ
9. バングラデシュ
10. スリ・ランカ
11. ブータン
12. ネパール
13. パキスタン

— アフリカ地域 —

1. マダガスカル
2. モーリシャス
3. エティオピア
4. ケニア
5. タンザニア
(ダルエスサラーム、ザンジバル)
6. ブルンディ
7. ザンビア
8. ナイジェリア
9. ニジェール
10. トーゴー
11. ガーナ
12. 象牙海岸
13. リベリア
14. ガンビア

— 中近東地域 —

1. サウディ・アラビア
2. 南イエメン
3. シリア
4. ジョルダン
5. エジプト
6. アルジェリア
7. モロッコ

— 中南米地域 —

1. ドミニカ共和国
2. メキシコ
3. グァテマラ
4. コスタ・リカ
5. パナマ
6. ベネズエラ
7. コロンビア
8. ペルー
9. ボリビア
(ラ・パス、サンタクルス)
10. パラグアイ
(アスンシオン、エンカルナシオン)
11. アルゼンティン
12. ブラジル
(ブラジリア、サンパウロ、レシフェ、
ポルトアレグレ、ペレーン)

— 大洋州地域 —

1. フィジー
2. パプア・ニューギニア

任国情報コメント用紙

本書をより使い易いものとするために、皆様からの貴重なご意見(説明不足、間違い、誤植、ご要望など)をお待ちいたしております。ご記入に際しましては、任国情報に関するこのみ具体的にご指摘くださるようお願いいたします。

[返送先] 〒162 東京都新宿区市谷本村町10-5
国際協力センタービル

国際協力事業団 国際協力総合研修所
技術情報課 任国情報係

国名 年度 年版

氏名		年齢	歳	性別	男・女
利用区分	所属(担当)部課名	指導科目	派遣期間		
JICA役職員					
JICA専門家等					
その他		(所属先)	(当該国での滞在期間)		
住所					
電話番号		日付	年	月	日

国 総 研 記 入 備					
記 事		技術情報課確認印			
		データベース修正処理	課長	代理	担当
月 日	月 日	月 日	月 日		

